

黒だつてはだ色

小 六

新学期が始まる前、クレヨンを整理していたときに、ふと思いました。赤色のクレヨンには「赤色」、青色のクレヨンには「青色」と書いているのに、はだ色のクレヨンだけは、なぜか「うすだいたい」と書いてあるのです。不思議に思い、家にある色えんぴつを見ていると、はだ色は「ペールオレンジ」と書いてありました。絶対、「はだ色」と書いた方が分かりやすいはずです。わざわざ「うすだいたい」や「ペールオレンジ」と書く必要はありません。それなのに、何で『はだ色』と書かないのだろう。そう思い、必死

で考えていると、あることを思い出しました。「はだ色は、みんなうすだいたい色じゃない」ということです。

世界には、私たち黄色人おうしやくじんの他に、黒人や白人など様々なはだの色の人があります。だから、私の「はだ色はうすだいたい色」という考え方はまちがってはいないと思うけれど、少しちがうのかなと思いました。はだ色と言え、うすだいたい色ですが、それは黄色人おうしやくじんだけです。黒人にとってはだ色は黒や茶色だし、白人にとってはうすだいたい色は少しだけこいと思います。「はだ色」はその人のはだの色で何色にもなれます。そんなことを考えていたら、世界がとても広く感じられました。

しかし、それと同時に、こんなことも思いました。それは、「なんでそれ

ぞれのはだの色を認め合わないのか」
です。今、世界には、「黒人だから」
「白人だから」という理由で差別をさ
れている人がたくさんいます。黒人は
黒というはだ色、白人はうすだいい
より少しうすいはだ色です。世界には
たくさんの「はだ色」があります。そ
のはだ色を認め合うのがどうしてもでき
ないのか、私には分かりません。それ
ぞれがおたがいはだ色を認め合えば、
差別はなくなります。みんな自分の「は
だ色」をもっているのだから、その色
のせいで差別をされるのはおかしいこ
とです。みんながみんな、「自由に生
きる権利」があります。その権利がう
ばわれることは、絶対にあってはなら
ないことです。クレヨンと同じ色ばか
りだとききれいな絵がかけないのと同じ

で、いろいろな個性をもった人がいる
からおもしろいのだと思います。たく
さんの「はだ色」がある世界で、差別
をするのは本当に悲しいことです。
クレヨンのはだ色が「うすだいい
い」や「ペールオレンジ」と書かれて
いる理由は、「みんなはだの色がうす
だいい色なわけではないから」では
ないかもしれませんが、私もはこの
考えに満足しています。この出来事を
きっかけに、差別について考えること
ができたからです。みんなそれぞれ自
分のはだ色をもっています。みんな「自
由に生きる権利」があります。だから
こそ、差別は絶対にしてはいけません。
このクレヨンから、そんなことを教わ
った気がしました。